

「文学のまち大津」 ブランディング事業について

令和8年6月24日
市民部 文化振興課

（１） 背景

- ・ 令和６年大河ドラマ『光る君へ』の放送を契機に、大津の文学的魅力への注目が上昇している。
- ・ 大津は『源氏物語』のほか、俳句・かるた・百人一首など、多彩な文学資源が存在し、今村翔吾氏や宮島未奈氏などの現代作家も在住している。
- ・ これらの資源は、市民の誇りや愛着の源であると同時に、観光・教育・まちづくりなど多方面への展開が可能な大きなポテンシャルを秘めている。

（２） 事業の概要

令和７年度～令和８年度にかけて、下記の５本柱で推進する

- ①ブランディング戦略の策定（今後５年間の推進方針を策定）
- ②イベントの企画・実施
- ③協議会の運営（有識者等の意見を反映）
- ④ユネスコ創造都市ネットワーク加盟に向けた取組
- ⑤プロモーションの実施

（３） 目指す方向性

- ・ 市民が「文学のまち大津」であることを身近に感じ、自らのまちに誇りと愛着を持てるようにする。
- ・ 「文学のまち大津」の知名度と価値を向上させ、その先に2027年ユネスコ創造都市ネットワーク（UCCN）文学分野への加盟を目指す。

文学のまちの取組により目指すべき姿（案）

文学を通じたシビックプライドの醸成

多様な文学に親しむ
市民の増加

「文学のまち大津」の
知名度・価値の向上

ブランディング戦略

戦略をもとに、イベント、プロモーションを計画・実施

イベント

- ・かるた体験教室
- ・俳句ワークショップ
- ・源氏物語講演会
- ・芭蕉の句碑巡り
- ・文学名所のガイドツアー

などを想定

アンケート調査

- 文学に関する
- ・関心
 - ・ニーズ
 - ・資源

文学資源 の掘り起こし

- ・再発見
- ・再評価
- ・情報発信

団体 ヒアリング調査

- 文学活動団体の
- ・課題
 - ・ニーズ
 - ・支援

プロモーション

- ・ロゴの作成
- ・ショート動画の公募
- ・文学資源観光マップの作成
- ・文学活動団体の情報発信
- ・SNSの活用

などを想定

ユネスコ創造都市ネットワークの加盟

文学と他分野
との連携
(音楽や食文化等との協働)

中長期的な
ロードマップ
(計画的・継続的な取組)

行政の
リーダーシップ
(全市的な取組)

産学官の
連携・共創
(まちの活性化)

文学資源の
ブランド化
(社会的・経済的価値の創出)

文学を通じた
国際貢献
(国際的なネットワーク)

全体スケジュール

スケジュール（令和7～8年度） （株）アルパック委託期間

	令和7年度	令和8年度
ブランディング戦略の策定	戦略策定 9月～10月 市民アンケート調査 ヒアリング調査 3月～7月 戦略骨子案作成	8月～9月 戦略素案作成 9月～12月 策定予定
イベントの企画・実施	★ 11/15湖都の葉マルシェ イベント 源氏物語 かるた関連など	★ 10/3湖都の葉マルシェ 協議会（実行委員会）によるイベントの実施
協議会の運営	3/30 第1回協議会	7/17 第2回協議会 第3回協議会 第4回協議会
UCCN加盟に向けた取組	随時 専門家に相談	12/6UCCN加盟のためのフォーラムを予定 ★ 12月申請書提出予定 新規加盟認定結果は令和9年秋頃見込
プロモーションの実施	11月 ロゴ制作	多様な媒体や機会を活用した魅力発信

市が豊富な文学資源と活動基盤を有していることを確認

（１）豊富な文学資源

- ・ 「源氏物語」や「太平記」をはじめ、古代から現代まで多様な文学資源が存在
- ・ 石山寺、延暦寺、三井寺などの歴史・文化遺産
- ・ 近江八景、義仲寺、文学碑などのゆかりの地が市内各地に点在

（２）多彩で継続的な市民活動

- ・ 俳句、短歌、朗読、読み聞かせ等の活動が継続的に実施されている

（３）連携ネットワーク

- ・ 成安造形大学、滋賀大学、龍谷大学との連携実績
- ・ 海外姉妹都市との交流基盤を有する

（４）文学関連施設

- ・ 図書館、生涯学習センター、北部地域文化センター、和邇文化センター
伝統芸能会館、歴史博物館など活動を支える施設が充実

（１）文学関連団体のヒアリング

- ・ 俳句団体、短歌団体、かるた関連団体、文芸サークル等へのヒアリングを実施。
- ・ 各団体の取組みを可視化し、その成果を『広報おおつ』11月号からの1年間連載予定。

（２）市民アンケート

- ・ 対象3,000人へ郵送＋オンライン方式で実施（有効回収率：約40%）
- ・ 今後の施策を検討するための基礎データとして整理。

アンケート調査結果

- ・ 石山寺や紫式部などの文学資源は高い認知度を有している
- ・ 一方で、「文学のまち大津」の認知度は約3割にとどまる
- ・ 文学や本と食・カフェのコラボなど体験型企画への関心が高い
- ・ 創作活動やイベント参加経験がない人が約6割
- ・ 多様な媒体や機会を活用した情報発信が求められている

市・市民団体等による活動状況を整理

（１）市の取組

- ・ 湖都の葉マルシェ
- ・ 「かるたの聖地・大津」（競技かるたの聖地を発信）
- ・ 源氏物語関連講座
- ・ 市民文芸誌「湖都の文学」
- ・ 子どもの読書活動推進
- ・ 学校夢づくりプロジェクト など

（２）市民団体による取組

- ・ 大津あきのた会
- ・ 電車と青春21文字プロジェクト
- ・ 大津市俳句連盟 など

（３）活動を支える基盤

- ・ 図書館、公民館、生涯学習センター 等

文学に関する様々な
取組や活動が行われ
ている

（１）「文学のまち大津」ロゴ完成

- ・ イベントや広報物に使用し、ブランドの一体感を高める。
- ・ 湖都の葉マルシェにおいてのぼり旗を掲出する。
- ・ 市HPに掲載するとともに、プレスリリースを行い、広く活用の周知を図る。



イベントでの使用



広報おおつ連載

（２）湖都の葉マルシェの開催

開催日時 令和7年11月15日（土）10時～15時

会 場

メイン：なぎさ公園おまつり広場・修景緑地
サテライト：丸屋町商店街周辺

来場者

推計3,500人（目標3,000人）

主な内容

- ・文学作品のフリーマーケット
- ・大津の文学PRブース・出版社等ブース
- ・リサイクル本の譲渡会・移動図書館
- ・湖都の葉おはなし会・児童書の譲渡会
- ・青春21文字のメッセージ特別展示会
- ・トークイベント
（鷺尾龍華氏×今村翔吾氏） など

主な成果

- ・来場者満足度 約96%
- ・市外・県外からの来場もあり
- ・作家・クリエイターの発表機会の創出
- ・「文学のまち大津」の認知向上につながった

実行委員会

- ・（一社）大津市商店街連盟
- ・（公社）びわ湖大津観光協会、
- ・（株）まちづくり大津
- ・大津市（商工労働政策課・文化振興課・図書館）



（３）かるたの聖地でかる体験

競技かるたの魅力を体験できる参加型イベントを開催

- 日時：令和8年2月8日（日）
- 場所：近江勸学館



（４）源氏物語から立ち上げる“湖都の言の葉” in 石山寺

紫式部ゆかりの石山寺で、山崎ナオコーラさんと鷺尾龍華座主によるトークセッションや「源氏物語」読書会、湖都の葉ミニマルシェを開催。

- 日時：令和8年2月21日（土）
- 場所：大本山 石山寺 明王院／拾翠園



（５）「文学のまち大津」意見交換会

「文学のまち大津」をテーマに、身近に感じていることや、取り組んでみたいこと、これからの大津に期待することなどについて、意見交換を行った

- 日付：令和8年2月14日（土）
- 場所：市民文化会館



「文学のまち大津」の実現に向けて、戦略策定と実践的な取組を進める

(1) ブランディング戦略の策定

(2) 「文学のまち大津」の推進

- 湖都の葉マルシェ（R8.10.3（土）開催予定）
- 図書館と連携した「文学のまち大津」展示コーナーの設置
- 作家への支援
- 文学さんぽ
- その他、大津市民短歌・俳句大会の開催や湖都の文学の発刊
など市民が文学に親しむ機会を創出する

(3) UCCN加盟申請

- 12月上旬にユネスコ創造都市ネットワーク加盟に向けたフォーラムを実施

【目的】

ブランディング戦略の策定にあたり、有識者や関係団体等から意見を聴取するために設置

【構成】（敬称略）

龍谷大学政策学部教授（学識経験者） 只友 景士

成安造形大学 副学長 加藤 賢治

石山寺 座主 鷺尾 龍華

大津市文化連盟 理事（俳句） 七里 源一

電車と青春21文字プロジェクト 代表 福井 美知子

（株）しがぎん経済文化センター 文化事業部プロデューサー 角間 利昭

（公社）びわ湖大津観光協会 副会長 金子 博美

（一社）ホンミライ 理事長 今村 翔吾

【開催状況】

- ・ 第1回 令和8年3月30日 開催
- ・ 第2回 令和8年7月17日 開催予定

第1回文学のまち大津推進協議会では、下記の部分を議論

現状分析

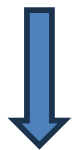


- 基礎調査
- アンケート調査結果
- 既存取組の現状
- 文学に関わる人の意見

課題整理



目指すべきゴール



目指すべきゴール実現のための事業展開

（１）主な課題を整理

- ・ 文学資源が十分に発掘・整理・公開されておらず、それらを活用した機会が少ない
- ・ 市民が文学に日常的に触れる機会が不足している
- ・ 子どもや若者の文学への興味・関心を高めるため、また、次世代の担い手を育むための機会が不足している
- ・ 文学に関連した市民・団体・大学等との連携が不足している
- ・ 国内外への魅力の発信力が弱い

（２）目指すべき方向性（案）

- ・ 市民が文学資源に誇りを持ち、生涯にわたって文学に親しめるまち大津

(1) 文学資源の活用・見える化

- ・ 点在する文学資源をつなぎ、「文学のまち大津」として分かりやすく発信することが必要
- ・ 市民が日常的に文学に触れられる環境づくりが重要

(2) 市民参加と次世代育成

- ・ 市民が読むだけでなく、書く・伝えるなど主体的に参加できる仕組みが必要
- ・ 子どもや若者が文学に関わる機会を増やすことが重要

(3) 地域との連携

- ・ 文学を通じた地域交流やコミュニティづくりを進めることが重要
- ・ 図書館や既存施設を活用しながら活動の場を広げることが重要

(4) 魅力発信

- ・ 「文学」の持つ魅力を分かりやすく伝える工夫が必要
- ・ 国内外への発信や交流を視野に入れた展開が期待される